

一般財団法人水原フィラテリー財団

2022年度事業報告書

2022(令和4)年4月1日～2023(令和5)年3月31日

【概要】新型コロナウイルス感染症の影響は、2020年度、2021年度ほど大きくないとはいえ、2022年度もまだ続き、事業活動は「withコロナ」を余儀なくされました。しかし、内容や手法を工夫し、展覧会の回数、イベントの回数は減らすことなく開催できました。SNS(会員制交流サイト)も利用し、郵便切手文化の普及・振興、支援・助成を続けています。

I. 継続事業

1. 資料の収集、保管、公開

郵便切手類及び郵便切手関連資料を収集、保管するとともに、展覧施設「切手の博物館」における展覧会を通して公開しました。

(1) 資料の収集・保存管理

- ①日本及び世界各国の新切手を常時購入し、発行国別・地域別にレファレンス・コレクションとして整理・管理を行っています。
- ②図書収蔵委員会を月1回開催し、郵便切手関連資料の購入検討、新規受入図書の項目別クロス・インデックス作り及び収蔵図書の件名統一を続けています。
- ③郵趣文献類については、24名の方から802冊(単行本136冊、雑誌665冊、CD-ROM1点)が寄贈されました。(公財)日本郵趣協会(以下(公財)略)及び(株)日本郵趣出版発行の全刊行物、並びに郵趣団体発行の支部報や雑誌の寄贈も受けています。
- ④世界の歴史に残る大きな出来事を郵趣史として記録するため、新型コロナウイルス(COVID-19)を題材とした郵便切手類を収集・保存しています。

(2) 企画展示・特別展示の開催

展覧施設「切手の博物館」において、以下の展覧会を開催しました。

① 企画展示

1階展示室でテーマを替えて行いました。2020年度・2021年度に引き続き、展示替えを4ヵ月ごととしました。展示内容及び広報については、企画展示委員会において協議しています。

会期	展覧会名	開館日数	観覧者数(名)
4月2日(土)～7月31日(日)	ありがとう郵便	104	2,646
8月2日(火)～11月27日(日)	絶景かな 絶景かな	102	2,974
12月1日(木)～3月30日(木)	フルーツがいっぱい	98	2,881
合計		304	8,501

②特別展示

○3階展示室で、有料展を次の通り開催しました。

会 期	展 覧 会 名	開館日数	観覧者数(名)
9月17日(土)～9月25日(日)	おめでとう！10周年 切手のぽすくま 大集合	8	540
12月3日(土)～12月25日(日)	切手の博物館のクリスマス	20	810
合 計		28	1,350

○3階展示室で、無料展を次の通り開催しました。

7月23日(土)～8月21日(日)…「きて★みて★きって2022」

9月3日(土)～9月11日(日)…第19回切手はり絵コンテスト作品展

※以下の期日に豊島郵便局が臨時出張所を開設、小型印の押印サービスを実施しました。

5月3日(火・祝)…母の日は手紙を送りませんか

5月18日(水)…国際博物館の日

7月23日(土)…ふみの日

9月21日(水)…おめでとう！10周年 切手のぽすくま 大集合

12月6日(火)・20日(火)・24日(土)…切手の博物館のクリスマス

2023年2月14日(火)…切手の博物館でバレンタイン

(3) 蔵書の公開

「切手の博物館」図書閲覧室では、蔵書を開架図書と閉架図書に区分し、一般の利用に供しています。閉架図書の利用は53名、149冊でした。

(4) 入館料の特典

「切手の博物館」の入館料に以下の特典を設けました。

- ①毎月23日・ふみの日（5月・1月は休館日に当たるため24日(火)）の入館料無料。ただし、4月～6月は入館料無料に代わり招待券（有効期間なし）を配布。
- ②厚生労働省が推進する「児童福祉週間」（5月3日(火・祝)～5月8日(日)）に、小中学生入館料無料。（小中学生の入館者数29名）
- ③国際博物館会議(ICOM)及び(公財)日本博物館協会（以下(公財)略）が提唱する「国際博物館の日」（5月18日(水)）の入館料無料。（入館者数79名）
- ④「家族ふれあいの日」（東京都他）として毎日曜日、家族連れの小中学生入館料無料。
- ⑤バレンタインデー（2月14日(火)）の女性の入館料無料。（女性の入館者数57名）
- ⑥日本博物館協会・国際博物館会議等、他機関の会員証の提示で入館料無料または減免。

2. 展覧施設「切手の博物館」の運営管理

(1) 来館者サービス

「切手の博物館」の来館者の満足度を高めるために、以下のサービスを提供しました。

- ①館内を余すところなく楽しんでもらうための「切手の博物館・攻略ガイド」をホームページに掲載。
- ②1階のパソコン・コーナーで、企画展示のテーマに合わせて全国の風景印を紹介するほか、切手の博物館のホームページの閲覧サービスを提供。
- ③展示の観覧を助けるルーペ及びハンドライトの貸出し。（貸出人数163名／151名）
- ④図書閲覧室では、国内外の新刊本・話題本などを紹介すると同時に、一部の書籍を販売。また、コ

ピーサービスを提供。(コピー利用人数113名)

- ⑤「司書の三つ押し」と題したお勧め図書(閉架図書を含む)の無料閲覧サービスの実施。(毎月更新)
- ⑥すべての企画展示で、ホームページにプレゼント・クーポンを付与。(交換人数423名)
- ⑦小中学生向けに、展示を見て答える「切手クイズ」を実施。(参加者566名)
- ⑧切手の博物館のイベント案内や新切手の発行案内などを掲載した情報チラシ「MAYっこ」を、毎月1回、ふみの日(23日)に発行。
- ⑨1・2階の入館を対象とした「年間パスポート」を発行。(期末登録者数49名)
- ⑩「自画像切手ポストカード」作成代金を70歳以上の来館者へキャッシュバック。(利用人数45名)
- ⑪英文パンフレットの配布。
- ⑫公衆無線LAN「Wi-Fi」サービスの実施。

休止したサービス

- 「ウェルカム・カード」の発行
- 入館料を日本の未使用切手で支払えるサービス
- 切手万華鏡
- 発光切手ボックス

(2) 記念品の頒布

「切手の博物館」の来館記念品として、日本及び世界各国の郵便切手類並びにスーベニアグッズを販売しています。

(3) 市民参画

- ①切手の博物館メンバー「MAY(メイ)」の会員を引き続き募集し、会員にはメンバーニュース「MAY」及び「受入図書リスト」を配布しました。期末の会員数は68名で、内訳はM(メジャー)メンバー44名、A(アシスト)メンバー24名、Y(ヤング)メンバー0名です。
- ②切手はり絵(切手の博物館内・出張)及び切手たんけん隊の補助役として、登録ボランティア制度を設けています。(期末登録者数2名)

3. 普及啓発事業

(1) 施設内における活動

郵便切手文化に触れる楽しみを広げ、その社会的プロセスを通じてSDGs(持続可能な開発目標)の考え方を理解してもらうため、「切手の博物館」館内で以下の活動を実施しました。

- ①「絶景かな 絶景かな」展において、風景印ライター・古沢保氏によるギャラリートークを開催。(参加28名)(目標4)
- ②ワークショップ「体験!切手はり絵」を、感染対策を施して毎月第3日曜日に実施。(参加者223名)(目標4・12)
- ③ワークショップ「あったらいいな!こんな切手」を、5月3日~22日に実施。(参加者約30名)(目標16)
- ④日本郵便(株)の切手デザイナー(中丸ひとみ氏、楠田祐士氏)とのコラボレーションによる手紙振興イベントを開催。同時に、日本郵便(株)から切手原画を借用。(目標4・11・17)
 - 特別展示「おめでとう!10周年 切手のぼすくま 大集合」(中丸氏)
小型印(1種)の原図及びオリジナルポストカード(1種)の原図提供
スペシャルトーク…9月25日(日)、参加者20名(事前応募制)
 - 特別展示「切手の博物館のクリスマス」(楠田氏)

小型印(3種)の原図及びオリジナルポストカード(1種)の原図提供

スペシャルトーク…12月24日(土)、参加者19名(事前応募制)

⑤「図書館記念日」(4月30日(土))及び「国際博物館の日」(5月18日(水))の閉架図書利用料無料。
(利用者4名)(目標4・11)

⑥2023年用年賀はがきの拡大図版と解説を1階エントランス壁面にてパネル展示。(目標4・17)

⑦「切手に見るウクライナ」と題したフレーム展示を1階エントランスにて実施。(目標4・16)

休止・中止した活動

○「ちょっとだけ体験!切手はり絵」 ○体験型イベント「切手たんけん隊」

(2) 社会に向けての活動

以下の活動を通じて、広く社会一般に郵便切手文化についての知識を広げ、興味を育む活動を行なっています。

①豊島区の「子どもスキップ」(放課後児童施設)において、「出張切手はり絵」を6回開催(参加者106名)。また、切手はり絵ワークショップの材料を2施設に提供。

②近隣の小学校において郵便に関する出前授業を実施。(1回)

③都内(渋谷区)の大学図書館学司書ゼミナールの図書室見学を受入れ。(1回)

④日本郵趣協会が行っている「切手趣味週間 春の全国ミニ切手展」キャンペーンに協力し、全国の博物館4カ所でミニ切手展を開催。

⑤郵便切手文化に関する出版物として、特別展示と連動した「ぽすくま 10th ANNIVERSARY BOOK」を8月に、また「ワイド版 最新世界切手地図」を11月に刊行。

⑥日本郵趣協会の社会貢献事業「手紙を書こう!プロジェクト2022」を協働して推進。「スタンプショウ2022」では、切手デザイナー(玉木明氏)のトークショーにMC(司会者)を派遣。

⑦「ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2022」のコンクール審査に審査員1名を派遣。

(3) ホームページ等を利用した活動

前年度に引き続き、ホームページ等を利用した発信に力を入れました。

①学芸員による展覧会の展示解説を毎月ふみの日(23日、5月・1月は24日)に配信。

②「学芸員の切手旅」と題して、切手に描かれた場所への旅と切手解説を配信。(4回)

③『おうちミュージアム』(Webサイト上に公開した学習プログラム)に賛同し、切手を使って家で楽しく遊んだり学んだりできるコンテンツを提供。

④オンライン切手講座を配信。

○国際博物館の日(5月18日)に「ありがとう郵便」展のクイズ付き解説を配信 ○切手たんけん隊を配信で開催(4回)

(4) 広報活動

①切手の博物館で開催の展覧会及び「体験!切手はり絵」をPRするチラシ等を作成し、近隣の施設に配布しました。

②切手の博物館の企画展示、特別展示、イベントなどの情報を、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、チラシミュージアム(スマホ、タブレット専用サイト)を通じて発信しました。また、これらの情報をマスコミ各社(新聞・ラジオ・テレビ・出版社・Webサイトなど)及び関連施設(大学、団体、店舗など)へ広報しました。

- ③切手などに関するマスコミの照会・取材、また単行本や学習教材の挿絵用に切手を使いたいという申込みにも、積極的に応じています。
- ④「郵趣」などの郵便切手文化の専門誌において切手の博物館の企画展示、特別展示などを案内するほか、日本郵趣協会主催の展覧会に協力するなど、広報に努めました。
- ⑤切手の博物館だより「MAYっこ」を1ヵ月に1回、豊島区の「子どもスキップ」などに送り、地域への広報に努めています。
- ⑥切手の博物館の入館料割引引換券の目白駅での常置や、(公財)日本野鳥の会などの団体の会員特典に協力するとともに、「さくら日本切手カタログ」に入館無料クーポンを付けるなど、来館者促進を企図しました。
- ⑦日本郵趣協会が発行する切手カタログなどに図版を提供し、専門出版物において切手の博物館をPRしました。

(5) 他館との交流

2023年度に向けた準備を行っていますが、2022年度においては、収蔵品の貸出・借用はありませんでした。

4. 学術調査研究事業

(1) 調査研究

- ①紀要編集委員会の査読を経て、研究者の調査研究成果を取りまとめた「切手の博物館研究紀要」(第19号)を発行しました。
- ②日本博物館協会主催の全国博物館長会議(オンライン開催)、東京都博物館協議会総会・日本博物館協会東京支部総会(書面開催)、文化庁主催の「博物館法の改正に伴う新登録制度に係わる説明会」(オンライン開催)に出席し、学術調査研究事業の質的向上に努めています。
- ③科学研究費補助金の指定研究機関として、定期書類の提出などを行っています。

(2) 鑑定

日本郵便切手類の真贋の鑑定を鑑定委員会のもとに行い、60点の鑑定書を発行しました。

5. 顕彰事業

「第19回切手はり絵コンテスト」を開催しました。「きて★みて★きって2022」期間中に作品募集を行い、全応募作品191点を切手の博物館において展示するとともに、優秀作品には賞状並びに記念品を授与しました。

6. 文化支援・助成事業

(1) 文化支援

- ①郵便切手文化活動の支援の場として「切手バザール」(開催8回)及び「0tegamiフリマ」(日本郵趣協会と共催、開催4回)を開催しました。
- ②日本郵趣協会主催の学術調査研究発表会などに3階展示室を提供(22回)し、公益活動を支援しました。

(2) 助成

- ①郵便切手文化の振興を図るため、日本郵趣協会主催の展覧会において、特別賞を寄贈しました。(2件)
- ②郵便切手に関する出版物に対して、費用の一部を助成しました。(7件)
- ③博物館の社会貢献活動の一つとして、1階エントランスに専用ボックスを置いて紙付き古切手の寄付を募り、集まった古切手は公益法人に寄贈する活動を続けています。

Ⅱ. その他事業

鑑賞・収集の対象となる日本及び世界各国の郵便切手類を、ミュージアム・ショップにて受託販売しています。

附属明細書（事業報告関係）

補足すべき重要な事項はないため、附属明細書は省略する。